

病院・医療等対策特別委員会

▶ 特別委員会の協議経過

■第15回特別委員会

- 1) 日時 令和3年3月15日(月)
- 2) 内容 中津川市公立病院評価委員会及び中津川市公立病院地域協議会報告について
- 3) 報告事項(主なもの)
 - ① 中津川市公立病院評価委員会及び中津川市公立病院地域協議会報告について

▶ 主な質疑

Q: 「中津川市公立病院改革プラン」の検証結果のうち、老健施設が赤字になっているのはなぜですか。

A: 移設前は戸建てであったが、坂下病院の3階に移設したことにより、給食の運搬に係る人件費や警備に係る委託料が増加しました。加えてコロナの影響もあります。

Q: 移転する時に、そこまで見込んだ説明がなかった気がします。今の説明は戸建ての方が、効率が良かったような説明だったが、そこまで見込んだ移転の提案だったのですか。

A: 計画段階で、坂下診療所の医療機能を市民病院に集約する中で、空いたスペースの有効利用という視点からこのような方針になっています。

Q: 検証結果の中に、「方針を見直さなければならない」とあるが、コロナ禍の中でやるべきではないと思うがいかがでしょうか。

A: 坂下診療所は全国的に見るとコロナの影響は少ないため、改革を遅らせることは考えていません。

Q: 保健所の機能が縮小してしまい、コロナの蔓延を防ぐことができなかったり、他所では入院ベッドが足りなかったりした事例がありました。コロナの影響や、今後の感染を考えると今すぐに結論を出す必要はないかと思いますがいかがでしょうか。

A: コロナの影響により評価を遅らせるというような国のガイドラインは出ていないため、病院事業部としては改革プランに則って検証を行いました。その中で、コロナの影響があるため検討すべきではないのかという意見もあっていいと思うが、現状で評価させてもらっています。坂下診療所はコロナの入院ができる性質の病床ではないし、仮に変えられたとしても、スタッフの確保も含め、すぐには対応が困難なため、コロナだからというのはあまり当てはめずこういった提案をしています。コロナに使える病棟にする、しないというのは別の問題

になります。

Q：コロナの患者を受け入れるようになっていないと言うが、他所を見ても、すぐに受け入れるようにすることはできますよね。コロナの患者を受け入れるリスクは、病院だろうと老健だろうと同じだと思います。他所では感染症対策を万全にして受け入れているところもあり、老健があるから受け入れられないとは一概には言えないと思いますがいかがでしょうか。

A：坂下診療所は、老健が併設しており、コロナとは非常に相性が悪いため、コロナの患者を入れることは考えていません。受け入れるに当たっては、坂下診療所の検査機器や医師、スタッフ等を市民病院並みに揃える必要があります。今の坂下診療所の体制では受け入れることができない状況です。

Q：老朽化が進む中、医療機器の更新や修繕に係る費用が発生するとありますが、現状ではどのような老朽化が予想されますか。また、今すぐにでも更新や修繕をしなければならないものや医療機器はありますか。

A：建物の老朽化と医療機器の老朽化があります。建物についてはトイレや屋根の雨漏り等の水回りに関するものや、自家発電機等です。医療機器については、安全性を考慮すれば耐用年数内で替えていけることが最良ですが、10年以上使用している機器もあります。今すぐに更新が必要なものは、坂下診療所でエアコンの修繕が予想されます。医療機器は、電子カルテ、眼科の画像システムは令和4年度に更新が必要です。また、透析機器は令和5年度の更新を見込んでいます。CTは耐用年数を越えた9年が経過しており、令和3年度の更新を見込んでいます。

Q：坂下診療所の外来診療について、直営診療所と同様な診察と薬のみを中心とするとありますが、直営診療所の場合どのような医療機器を備えてあるのですか。

A：簡単なレントゲン機器と超音波検査機器です。

Q：アンケートについて、内科のみに誘導しているように感じました。23頁に、内科のみとした場合、5年間で4億8,900万円削減可能とあり、数字が大きい部分を取り出して誘導したように感じられましたがそのような意図はありませんでしたか。

A：少しでも財政負担を軽減するため作成したたたき台に対して意見を伺うためのアンケートとなっており、そのような意図はありません。

Q：内科のみにすると眼科もなくなってしまうということになりますよね。眼科には非常に腕の良い先生がいらっしゃるようで、資料の中に硝子体手術ができるとありましたが、市民病院で硝子体手術を行っていますか。

A：市民病院では行っていません。

Q：内科を残すのであれば眼科も残すのが効率も良いし、収入も増えるかと思いますがいかがですか。

A：市民病院では、硝子体手術が行える設備の準備はあります。腕の良い先生と複数の眼科医で手術を行うことができれば、中津川市全体としても大変良いことだと思います。しかし、現在坂下診療所では手術室は使用していない上、先生も一人のため、大掛かりな手術も行っていない。委員が言われた視点から見れば、市民病院で硝子体手術もできるスタッフとして活躍してもらえるのが、中津川市全体にとってはありがたいことだと思います。

Q：地域協議会の委員の回答と評価委員の回答と異なる点がありますが、地域協議会の回答の評価はどうされたのですか。

A：評価委員会の後、地域協議会が開催されており、評価委員会のアンケート結果を参考に地域協議会の委員が回答しています。

Q：この結果を市長に提言するということですか。

A：提言書については評価委員会が担っています。地域協議会の委員の幅広い意見や、病院・医療等対策特別委員会の意見を盛り込み、提言書としますが、その他についてはご意見ということですので市長へ提出する予定です。

最後に「令和2年度中津川市新公立病院改革プラン（改訂版）点検評価及び提言書」内の5つの提言について意見交換を行いました。

提言1：入院機能（療養19床）を廃止する

提言2：必要と思われる診療科を選択（残す）

提言3：診察と薬を中心とする診察機能とする

提言4：医療機能の制約があっても旧坂下病院の民営化を進める

提言5：将来的に市民病院も民営化を進めるべきである

提言1については、現在入院患者がいない点や、医師や医療スタッフの確保が困難という点から廃止はやむを得ないとの意見が大半でしたが、必要な時に入院できる機能は残しておくべきとの意見がありました。

提言2については、外来診療科については内科のみにする、必要な診療科を残すという2つの意見に分かれました。

提言3については、診療機能については、診察と薬を中心とする機能が良いのではないかとの意見が大半でしたが、一方で今ある機能は残すべきとの意見がありました。

提言4については、旧坂下病院の民営化については、民営化は、ある程度やむを得ないが、メリット・デメリットを研究する必要があるとの意見と、民営化で必ずしも良い医療ができるわけではないという意見がありました。

提言5については、市民病院の民営化については、不採算の部門を持ち続けることが疑問で、病院経営における専門的なノウハウも生かせることで民営化を考えるととの意見と、現段階では疑

間があり、民営化により不採算部門が切り捨てられる可能性があるとの意見がありました。